

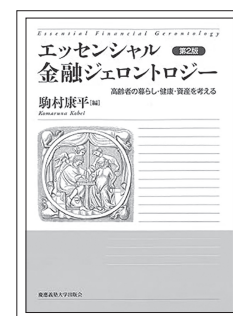
著書紹介

『エッセンシャル金融ジェロントロジー 高齢者の暮らし・健康・資産を考える 第二版』

〔編者〕駒村康平 〔執筆〕石崎浩二・大内誠・岸本泰士郎・高山緑・江口洋子他

慶應義塾出版社 2023年10月

本体価格 3,200円＋税



金融ジェロントロジーとは、経済学・医学・老年学・脳神経科学等を融合した学際分野であり、加齢に伴う認知機能の変化が経済行動や金融資産の管理・運用に与える影響を研究するものです。

高齢者は身体機能の低下や持病を抱える人も多く、必ずしも健康な状態で長寿化が進んでいるとは限りません。長寿化によって退職後の生活期間は長くなる一方、収入は減少します。その結果、インフレによる生活費の増加や、医療・介護費の負担が大きな課題となります。老後に備えて資産運用を通じて増やすことも大切ですが、老後に楽しみにしていた旅行や趣味にかかる費用、子どもや孫への贈与など、老後のWell-Beingを高めるためには、資産をどのように取り崩すかという視点も欠かせません。

特に認知機能の低下は、資産運用、相続等の高度な意思決定だけでなく、ATM操作や振込手続き等の日常的な金銭管理にも影響を及ぼします。さらに、訪問セールスや通販を通じた過剰消費や特殊詐欺の被害にも遭いやすくなります。金銭管理のサポートは家族が担うことが多いものの、単身世帯では相談先がなくて困っている高齢者も少なくありません。家族以外で高齢者に接する福祉関係者と金融機関が連携した支援も求められていますが、現状では個人情報保護法や消費者保護法など制度面での課題も多くあります。また、金融取引において、家族の同席や同意が必要以上に重視され、年齢制限により資産運用したい高齢者の意思が十分に尊重されない場合もあります。

本書は、加齢に伴う身体や感覚器官の変化、認知症の特性や予防等の医学的知識に加え、自信過剰・保有効果・後悔回避バイアス等の高齢者の意思決定に影響しやすい心理や行動経済学、高齢者とのコミュニケーションの取り方、資産管理における意思決定や支援制度の金融実務など、12名の専門家が多面的に解説しています。高齢者自身の望む形で資産活用できる金融商品開発、将来の不安を軽減してWell-beingを高めるためのお金の活用のアドバイスなど、高齢者を中心に置いた金融サービスや支援のあり方を勉強したい金融機関、公共事業者、福祉関係者など幅広い分野の皆さんにとって有用な一冊です。

高齢者のお金の悩み

収入	就労機会(選択肢)の減少 年金の不安
支出	医療費・介護費の自己負担増 物価高騰による生活費圧迫 子供・孫への経済的支援
資産管理	認知機能の低下による金銭管理 預貯金の取り崩し キャッシュレス・DXへの対応困難
詐欺・トラブル	特殊詐欺・過大消費 相談相手がいない(恥の意識、支援制度の無知)

(MUFGシニアライフ研究所 首席研究員 石崎浩二)